

総領事公邸にようこそいらっしゃいました。在レオン総領事の青山健郎です。本日は、この公邸で、平成6年秋の叙勲の受章者であるエクトル・ヘルマン・レネ・ロペス・サンティジャーナ様への勲章伝達式を執り行うことができ、大変嬉しく、また光栄に存じます。先ずは、ロペス・サンティジャーナ様、おめでとうございます。

さて、本年は日本メキシコ経済連携協定が発効して20周年となります。2004年に当時のビセンテ・フォックス大統領と小泉総理大臣の間で署名されたこの協定が翌年、2005年に発効した時、メキシコ国内には約300の日系企業の拠点がありましたが、それが現在は約1500拠点ということで5倍に増えています。このうちのグアナファト州には、自動車産業を中心として、約300の日本企業の事務所や工場が日々操業しています。グアナファト州は今や、メキシコの中で日系企業を最も数多く受け入れている州になっているのです。

これらの日系企業はたくさんの雇用を生み出し、日本の持てる産業技術をメキシコに広め、グアナファト州経済、そしてメキシコ経済の発展に大きく貢献してきました。同時に、日本からメキシコへの企業の進出は、日本経済の活性化にも貢献しています。長引く不況、2008年のリーマンショックの影響、2011年の東日本大震災、さまざまな困難に直面してきた日本経済が復活していくためには、力強くダイナミックなメキシコ経済の活力を取り込んでいくことが重要でしたし、これからも重要です。つまり、日本からメキシコへの投資は、メキシコと日本の両国に大きな利益をもたらしているのです。

こうした日本とメキシコ、そして日本とグアナファト州の経済関係の発展の歴史を振り返ると、そこにロペス・サンティジャーナ氏の姿が常にあることに気づきます。同氏は、2012年に2度目のグアナファト州政府経済開発局長に就任して以来、グアナファト州知事代行を経て、レオン市長を2期務め、グアナファト・プエルト・インテリオール総合工業団地代表である現在に至るまで、その時その時の立場から一貫して日系企業の誘致及び支援を継続してきました。日系企業のための工場用地の確保、さまざまなインセンティブの提供、日系企業が直面する問題の解決など、日本企業の活動を支援するために多大な努力を払われ、日本とグアナファト州の経済関係の深化に大きく貢献されました。今も、日系企業や総領事館にとって良き相談相手となってくれています。

ロペス・サンティジャーナ氏の功績は経済分野にとどまりません。特に、レオン市長を務めておられた 6 年間には、日本人を含む外国人を暖かく迎え入れ共に繁栄していく政策を掲げ、地元グアナファト州の人々の日本に対する親近感を醸成し日本に対する理解を促進することに尽力されました。私は、日本とグアナファト州の友好関係、そして日本とメキシコの友好関係は、市民レベルの相互理解と友情が礎になっていると思います。ロペス・サンティジャーナ氏は、こうした二国間の友好の礎を築き上げるのに貢献されてきた功績があります。

それでは、ご列席の皆様、日本とグアナファト州の交流の促進、日本とメキシコの友好関係の発展に尽くされたロペス・サンティジャーナ氏の功績を称え、同氏に旭日中綬章を伝達いたしたいと思います。ロペス・サンティジャーナ様、ご家族、ご友人の皆様、改めて心よりお祝い申し上げます。ありがとうございました。

(了)